

U 協 近 畿 通 心

～ U 協 を 使 い 倒 し ま し ょ う ～

【 は じ め に 】

近畿事業推進部の川畑です。先月は協会一大イベントである電話応対コンクール全国大会 in 山口が3年ぶりのリアルで開催されました。

3年ぶりの大会で選手もモチベーションが上がっていました。近畿では京都府代表の中原さんが準優勝、奈良県代表の柴山さん、大阪府代表の原田さんが優秀賞でした。6支部中3支部が入賞でした。

皆さん、おめでとうございます。そしてお疲れ様でした。

さて、もう師走です。1年が経つのはほんと早いです。今年やり残した事、来年へ向けて準備する事など忙しい時期ですね。当協会でも、今年度事業計画の振り返りと来年度へ向けた方向のすり合わせをする時期です。新型コロナでうまくできなかったこともあります。それを言い訳にしても始まりませんね。できることをもう一度見つめなおして仕切り直ししていきます。

最近、ポケットマルシェを試しています。ポケマルとも呼ばれています。生産者と消費者を直接結び付けるプラットフォームなんです。リンゴの王林と駿河湾のおかず（深海魚）を取り寄せました。この仕組みは以前私も考えていたものです。ポケマルがサービスを始めたのはだいぶ前に知っていましたが、最近注目を集めているようで興味が湧き、使ってみました。食べるのが好きな私にはとても面白いサービスです。こんなサービスが増えていくと農家さんや漁師さんも稼げるようになって考えています。

そんな農家さんや漁師さんへのICT活用推進の情報提供も私たちの役目ではないかと最近思っています。今月もU協近畿通心を愉しんで頂けると嬉しいです。



優勝、準優勝、優秀賞の方を囲んで大会役員も入って記念撮影です。皆さん、いい笑顔ですね。

【 I C T 用 語 豆 知 識 P o C (P r o o f o f C o n c e p t : 概 念 実 証) 】

P o C (P r o o f o f C o n c e p t : 概 念 実 証) ってご存じでしょうか。

P o C (P r o o f o f C o n c e p t : 概 念 実 証) とは、新たなアイデアやコンセプトの実現可能性やそれによって得られる効果などについて検証することです。ピーオーシーとかポックとも読まれます。

これによって**事前に検討したアイデア／コンセプトの実現可能性を見極め、期待した効果が得られると判断できれば実プロジェクトを進めていく**という形が一般的です。

例えば、新規性の高いビジネスを立ち上げる、あるいは革新的な技術を利用するといったとき、本当にそれが実現できるのか、それによって効果が得られるのかを机上の議論のみで判断するのは困難です。そこで実際に小規模で試作や実装を行い、出来上がったものを用いて検証を行うことにより、実現可能性の判断の精度を高めることが可能になります。

< P o C の 注 意 点 >

簡易的に製品を作って検証できるのが便利な点ですが、検証を何度も繰り返すだけでなかなか先に進まなかったり、P o C のコストだけが消費されていったりする状態を「P o C 疲れ」「P o C 貧乏」と呼びます。特にAIなどの新しい技術を利用したサービスや製品の開発時には、P o C で検証を始めたものの、現場と意思決定を行う経営層やシステム開発者など関係者間の認識のズレが生じてしまう場合があります。P o C を繰り返しているうちに、プロジェクトのゴールが明確でなくなり、本格的な開発ステップにいつまでも進むことなくコストと時間だけがかかってしまう恐れがあります。

< P o C の メ リ ッ ト >

- 1、開発リスクを抑えられる
- 2、無駄なコストを減らせる
- 3、周囲の理解が得られる

< P o C の 流 れ >

- 1、ゴール（目標値）を設定する
- 2、検証する
- 3、評価する

< P o C を 成 功 さ せ る ポ イ ン ト >

- 1、小さくスピーディに始める
- 2、実際の運用と同じ条件で行う
- 3、失敗から学ぶ

【ユーザ協会の得意技！ こういう蓄積・ノウハウがあります。岡部達昭先生編】

先月は第98回「褒め上手になる（2022.5.16）」をご紹介しました。

いかがだったでしょうか。今回は第99回「叱ってくれる人がいない」をご紹介します。

「褒められるより叱られるほうが嬉しい」と言う人が結構いることに驚きます。

褒められると嬉しくはあっても、何となく居心地の悪さを感じる。むしろ叱られるほうがすっきりして、やる気が起きると言うのです。「人は叱られて育つ」という昔からの格言が生きているのでしょうか。今回は、現代の叱り方事情について考えます。

叱り方が下手になった

「怒る」は自分本位な感情の露出ですが、「叱る」とは相手の考えや言動を正さんがためにする行為です。つまり怒ることは簡単ですが、**教育的効果を期待される「叱る」は、責任のある難しい行為なのです。**

近頃の子どもたちは、昔と比べると叱られた経験が少ないように思います。昔は、何かにつけて叱ってくれる大人が周りにいっぱいいました。子どもを叱るのは大人の共同責任だったのです。今はうっかり他人さまの子どもを叱ったりすると、とんでもないトラブルになりかねません。今の少子化家庭では、子どもを叱ること自体が下手になっているのでしょうか。

一方、学校ではどうでしょうか。先生方もまた、親御さんや世間に気を使ってか、あまり厳しくは叱らないようです。

この傾向は、社会人になってからも続きます。管理者研修などでその実態を訊いてみました。

1. 叱られ慣れしていないので、叱るとふて腐れて直ぐに辞めてしまう。2. 叱っても効き目がない。3. 叱ると人間関係が悪くなり、仕事がやりにくくなるので引いてしまう。4. 特にIT系の業務スキルや知識は、圧倒的に彼らのほうが高いので叱り難い。など、業種を問わず同じような答えが返ってきました。

加えてパワハラ、セクハラなどへの配慮もしなければなりません。**企業内での上司もまた叱り方が下手になっているのです。**それに今の若い人には、昔のような終身雇用という感覚はありません。この傾向は今後とも続くでしょう。だからと言って、経営者や管理者はこの状況を良しとはしていないのです。企業にとっては人材の確保、優れた教育環境の整備は最重要課題の一つなのであります。

怖かった無言の叱声

今とは違って生放送が原則であった放送の世界では、平然と言えることではないのですが、放送事故はつきものでした。ことにアナウンサーの仕事は、常に秒単位の時間との戦いでした。

1秒押ししてもみっともない終わり方になります。また一旦口にした言葉は取り消しが利きません。瞬時に全国に流れてしまいます。それだけに地名や人名、数字などの読み間違いや誤読には、神経を使ってきました。

初任地の小倉市（現北九州市小倉区）には、北方（きたがた）という知られた地区があります。着任して間もない頃、その北方であった交通事故のニュース原稿を「小倉市のほっぽうで交通事故がありました」と読んだのです。すぐにお叱りのハガキが届きました。「お前は世界でも珍しい放送をした。地図をよく見てみなさい。小倉のほっぽうはすぐ海だ」東京に来てからも、全国放送で、「四斗樽（しとだる）」を「よんとだる」と読んで、「言葉を知らない近頃の若いアナウンサー」と新聞にまで書かれたことがあります。上司にも叱られましたが、一番怖いのは、視聴者の皆さんからの無言のお叱りでした。

先輩から受けた叱り方の十戒

また昔話を一つします。私がアナウンサーという専門職から、部下を持つ管理職になった時のことです。前任のT先輩から言われた一言を忘れません。それは「**部下を叱れる上司たれ！**」でした。そして「これは俺の十戒だけどね」と言って1枚の紙をくれたのです。そこにはTさんの部下育成の10の戒めが書いてありました。それは少しも古くさくはないのです。

1.どこが悪いのか、どうなってほしいのかを明瞭に示せ。2.その場ですぐに叱ること。後だと効果が薄い。3.感情に任せて叱らない。一息つこう。4.事実を具体的に叱る。そのためには事実関係をはっきりさせる。5.ねちねちと以前の失敗まで持ち出さない。6.他と比較して叱らない。7.言い分にはしっかり耳を傾ける。8.叱るだけではなく、褒める点も見つけておく。9.叱る時は1対1（褒める時は皆の前で）。10.期待感をこめて真剣に叱る。

Tさんがくれたこの戒めは、その後数十年、私の行動と反省の指針となってきました。

【ユーザ協会の得意技！ 人生100年時代をICTで支えるデジタルヘルス】

前は、未来社会像「Society5.0」時代の医療（2022.06.15）をご紹介しました。今回は、スマホアプリを活用したSociety5.0時代の医療の実現をご紹介します。

Society5.0で実現する医療では、病院などの医療施設中心の医療ではなく、患者や市民の日常生活の中で得られた健康情報を基に、先を見通した医療が行われます。第2回の今回は、日常生活の中で行われるスマホアプリを利用したデジタルヘルスによる、これからの医療について解説します。



アプリが処方される新時代の幕明け

ついにスマホアプリが薬のように処方される時代が到来しました。ニコチン依存症を対象とした治療用アプリ※1が2020年8月に薬事承認※2を取得し、同年12月に保険適用されることが決まりました。つまり、保険診療でスマホアプリの処方が行われるということです。

このアプリのように、デジタル技術やIoTなどを活用して病気の予防・診断・治療といった医療行為を支援、または実施するソフトウェアなどを「**デジタルセラピューテックス**」と言います。その市場規模は2030年には325億米ドル（約4兆円）に達すると予想されています。

この市場成長の主な要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大による遠隔診療やデジタルヘルスのニーズの増加、世界的なスマホの普及そして保険適用や規制緩和などが挙げられます。

モバイルヘルスの有用性

デジタルセラピューテックスの中でも、高機能化するスマホやタブレットなどの携帯端末を利用して行う医療行為や診療サポート行為を、「**モバイルヘルス（mHealth）**」と言います。モバイルヘルスの利点は、①「**頻回※3・継続・遠隔・リアルタイム**」に**多様なデータが取得できること**、②**生体センシングデータ※4が取得できること**、③**双方向性の参加型医療の実践**が可能で、**個々人から幅広い情報を収集するのに適しています**。

また、近年医療界では、医療者による客観的な評価だけでなく、患者自身の評価や自覚症状の訴えなどの報告の重要性が認識されるようになりました。

そんな中でモバイルヘルスは、個々人の生活習慣などの情報収集に有用な手段としてだけでなく、**自覚症状や患者自らの評価を電子的に収集する手段としても注目**を集めています。

以上のように、モバイルヘルスは、医療施設からではなく、日常生活圏から個々人の病気に関する症状や生活習慣などの包括的な情報を得て、**医療ビッグデータとして蓄積できる点で画期的**です。特に、少子高齢化が急速に進む日本では、モバイルヘルスを活用するなどして、個々人が自身の健康情報を日常的に収集して医療機関に提供することによって、科学的根拠に基づいた健康・医療指導サービスが受けられるように、健康や医療に対する向き合い方を変えていくことが必要です。

また、そうすることで、病気の予防や自己管理に対する意識を高めることも可能です。

例えば、モバイルヘルスで見える化された疾患リスクをスマホで確認すれば、自らの健康状態をしっかりと把握しようとするでしょうし、疾患の予防・未病※5対策に取り組むように意識・行動が改善されていくと考えられるでしょう。

スマホアプリによるドライアイの診断補助

ここでは、日本で2,000万人、世界で10億人以上が罹患するドライアイに対するスマホアプリの活用例を紹介します。

デジタル化の進む現代社会では、視覚から得られる情報は質・量ともに日々増大し、視覚の重要性は以前にも増しています。しかし、ドライアイは人生の長期にわたる視覚の質の低下、集中力や生産性の低下を招いており、その経済損失（米国では約38億ドル）が国際的な問題となっています。さらに、高齢化や、ウィズコロナ／アフターコロナで、テレワークなど画面を見る機会が増え、よりデジタル化が進む社会においては、ドライアイの患者さんの増加が予想されています。

ドライアイの症状は、乾燥感のみならず、眼精疲労や視力低下など多岐にわたります。

そのため、ドライアイとは診断されず不定愁訴※6とされ、治療を受けないまま症状に苦しむ患者さんが多く存在することが、これまでの私たちが開発したドライアイ研究用スマホアプリを使ったクラウド型大規模臨床研究から明らかになりました。

さらに、ドライアイと診断されたとしても、新型コロナウイルス感染症拡大防止や、仕事・学業のため通院が困難という社会的問題もあります。

そこで、私もドライアイに対するデジタルセラピューテックスを目的としたスマホアプリの開発をスタートしています。このドライアイ診断補助用スマホアプリが実用化されると、ドライアイと診断されていない人や治療を始められていない人に対する早期診断・早期治療や、医療機関で受診できない人に対しても遠隔診療やオンライン診療が可能になる予定です。

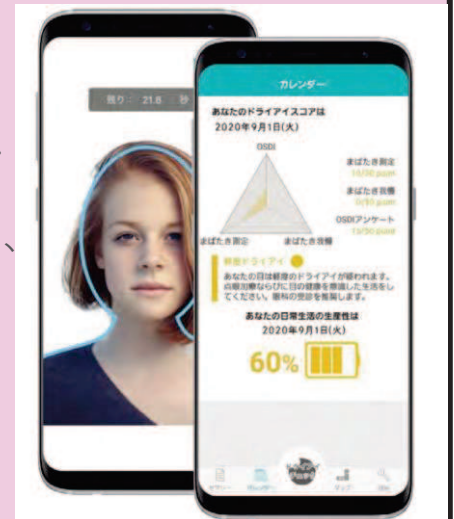
Society5.0時代の医療の可能性

ウィズコロナ／アフターコロナ社会では、世界中で「患者や市民の生活圏における医療」のニーズは増加すると予想されます。スマホアプリを用いたデジタルセラピューテックスは、継続的に個々人の包括的な健康・生活習慣に関するデータを収集することが可能であるとともに、個々人にとって必要な医療情報が必要な時に提供されるようになります。

今後、スマホアプリを用いたデジタルセラピューテックスは、モバイルヘルスを利用したSociety5.0時代におけるヒト中心の医療の実現に大きく寄与すると考えられます。

ドライアイ研究用スマホアプリのイメージ。 ⇒

まばたきの回数などをカメラで計測したり、アンケートに回答したりして、データをクラウドに蓄積する



※1 ニコチン依存症を対象とした治療用アプリ：ニコチン依存症治療アプリおよびCOチェッカー「CureApp AC」。呼気一酸化炭素濃度が自宅でも毎日確認できる機能などがついた禁煙治療用のアプリ。

※2 薬事承認：医薬品や医療機器などの製造販売を厚生労働大臣が承認すること。

※3 頻回（ひんかい）：間を置かずに何度も行うこと。

※4 生体センシングデータ：体温や鼓動、血圧、心拍など生体から発せられるさまざまな値を数値化したデータのこと。

※5 未病：自覚症状はないが検査で異常がある状態や、その逆で自覚症状はあるが検査では異常がない状態。

※6 不定愁訴：頭痛や倦怠感など、さまざまな自覚症状はあるものの、検査をしても原因となる病気が分からない状態にあること。

【お役立ち情報：21世紀のリーダーシップ 偏差値教育外で磨かれる変革者とは4】

意外なルートから起業して厳しい世の中で面白い活躍をしている起業家4名に、波瀾万丈の物語を語っていただくシリーズを受講しました。大変元気をいただきました。

21世紀のリーダーシップはこういう方が発揮していくのでしょうか。

今回は、最後4人目に学校法人角川ドワンゴ学園理事川上量生氏の話をご紹介します。皆さん**N高**ってご存じですか。講演聴いていて興奮しました。ここ凄いんです。

ホームページはこちらです。<https://nnn.ed.jp/>

最終回は、学校法人角川ドワンゴ学園理事・川上量生氏の「**N高が目指しているもの～設立の背景から未来まで～**」と題して、人材育成を通じて目指す将来像をお聴きしました。ゲームソフトの業界では知らない人がいないほど有名なドワンゴ設立者の川上氏は、世間からは落ちこぼれと見られていた自身の経験から、現在は、**異能の高校生を育てる教育に注力**していらっしゃいます。

川上量生氏は、1968年生まれ、1991年京都大学工学部卒業後、株式会社ソフトウェアジャパンに入社し、同社倒産後の1997年株式会社ドワンゴを設立されました。同氏は、小学4年生の小遣い月300円の時に、新聞配達で月12,000円もらえて以降、ずっとピークを更新し続けてきたと感じて27歳のドワンゴ設立時には、これからは他人のために生きようと決意されました。**ドワンゴは、パソコンとネットにはまって人生を踏み外した人間を救おうと考えて作られました。**川上氏は、**プログラミングの実装力は、学校に行かないでコーディングばかりやっていた人間のほうが上に決まっていると考えていました。**事実、ドワンゴでは東証一部に上場した時に、部長の過半数が高卒以下で中卒が多かったのです。**世の中で駄目だと思われる人間でも、機会さえ与えれば、普通の人間以上の働きができます。ネットで生きる人は落ちこぼれなどではなく、未来のエリートでもあり得ることを証明できました。**

その後、AI技術、3D技術などアカデミックな知識を必要とするプログラミングや、既存のライブラリなどを利用することが主流の世の中になり、ソフトウェア業界も結局、高学歴が進んでしまいました。そこで川上氏は、ドワンゴで不登校の多くを助けるため、通信制高校「N高」の設立を決意されました。

N高では、**まだ諦めていない不登校生を本当に救える高校にするため、不登校生を普通の生徒として受け入れ、ネットとITを駆使した未来の理想の高校を目指しています。**

不登校生については、在学中にだけ居心地の良い場所を提供しても意味がない、**社会に出て公的扶助に頼らないで自活できる生徒を一人でも多く生み出すのが社会的使命**と考えています。

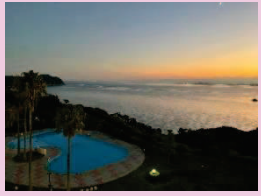
不登校生は、ネットリテラシーが高く、詰め込み教育の無意味さに気付く知性の高さを持っていたため、N高は個性を伸ばす未来の高校として認知され、生徒数は2万人以上に増えました。進学実績も通信高校の概念を越え、2022年3月末、3年連続で東大と京大の合格者を輩出しています。川上氏が育成する人材の活躍を期待したいですね。

これまで4人の変革者をご紹介します。こんな方が他にもいらっしゃると思っています。こんな方が世の中が変わるきっかけを創っていかれるのだと感じました。

<原稿大募集中！ご紹介します。>

あなたの知識や経験等が他の会員さんのお役に立てば、嬉しいです。いつでも待ってま～す。写真も大歓迎です。

送り先：f.kawabata@jtua.or.jp（川畑）までファイル（A4）を送ってください。



2023年新春特別企画

あの大前さんに

「2022年経済から見た今後の経済見通し」を学ぼう！

新型コロナ禍で難しい舵取りを迫られている経営者のみなさん、今年はインフレ、約32年ぶりの超ドル高・円安など経済は激しく動いていますね。

大前さんは2022年経済をどう総括されて、今後の経済はどうなると考えているのでしょうか。今後の経済見通し、気になりますね。

2022年を振り返り新年をスタートするにあたりゆっくり考えるいい機会です。今後の事業経営のヒントは、このセミナーにあります。お見逃しなく。

(Web申込先) 募集人数 ~~500名~~(先着順)
好評につき追加募集中 1,000名

QRコードをスマホで読みこんでください。

お申込ページはこちらをクリックしてください。

【開催日時】 2023年1月12日(木)
14:00~16:20 (13:50接続可能)

【参加方法】 申込時にアクセスURLをメールにてお送りいたします。
※商工会議所等からのご紹介の方は、該当欄に商工会議所等名を必ずご記入ください。

【参加費】 無料

【主催】 (公財)日本電信電話ユーザ協会
本部、東京、東海、近畿事業推進部(合同開催)

【共催】 大阪商工会議所 西日本電信電話株式会社
東日本電信電話株式会社

【開催内容】 (14:00開演 16:20終了予定)

あのマッキンゼーの世界的名コンサルタント大前さんに
2022年経済から見た今後の経済見通し(仮題)を学ぼう！

<講師:大前研一氏(ビデオ)、丹羽亮介氏(マインドシーズSG代表)>



※お知り合いの経営者の方にもぜひご紹介ください。



(株)ビジネス・ブレイクスルー
代表取締役会長
大前 研一氏

【問い合わせ先】 近畿事業推進部 電話 06-6534-8615

セキュリティの最新情報も
アップデートできます。
支部HPにて絶賛募集中！

あの講話がこの価格で聞けるなんて。

ユーザ協会
限定特別価格

BBT研修プログラムはコチラから



撮影(大田真三(小学館))

この値段でこのパフォーマンスにびっくりです。

あの大前研一さん率いるBBTの研修がユーザ協会会員様特典として利用いただけるようになりました。

BBTのコンテンツの中から、協会会員様のために特に選びました。
「見て学ぶ」と「参加して学ぶ」があります。

見て学ぶ

ビジネス講義映像

ブロードバンド・ラーニング(BBL)

詳細・お申込みはこちら



<経営者講義 - 19 講座>

定価33,000円(税込)を当協会
会員様は**1割引29,700円(税込)**で
ご視聴いただけます。

どの講座も大前研一さんの講演以外に業界の最先端に行く経営者の
講演が盛りだくさん！ これからの経営のヒントがたくさんあります。

参加して学ぶ

詳細・お申込みはこちら

5,500円(税込)
でご視聴いただけます。



みんなで脳に汗をかこう！！

ビジネスアウトプットGYM

いつでも学べる動画で「インプット」し、
LIVEトレーニングで「アウトプット」

まるでスポーツジムに通う感覚で、
ビジネススキルをオンラインで鍛える

詳細はこちら！

<https://wstg-bbt.staging-bbt757.com/corporate/sd/063jtua/index.html>



<近畿 6 支部限定プレゼント>

新規ご入会様、既存会員様

本特典ご利用で「DX革命(大前研一著)」を
プレゼントいたします！

後日、連絡責任者様へ送付させていただきます。